



# 第20回 藤木祭

生誕121年

日時 平成20年9月28日(日) 13:00~14:00  
場所 芦屋・高座の滝前〔雨天決行〕

主催 日本山岳会関西支部  
兵庫県山岳連盟  
大阪府山岳連盟  
後援 芦屋市  
近畿地区山岳連盟

## 第20回 藤木祭式次第

- |                  |              |       |
|------------------|--------------|-------|
| 1 開会のことば         | 司会者 兵庫県山岳連盟  | 森川 列  |
| 2 主催者挨拶          | 大阪府山岳連盟会長    | 山並 久次 |
| 3 来賓挨拶           | 芦屋市長         | 山中 健  |
| 4 東お多福山の生物多様性の再生 | 兵庫県立人と自然の博物館 | 橋本 佳延 |

- |                             |                  |
|-----------------------------|------------------|
| 5 藤木九三短歌朗詠                  | 藤木摩耶子            |
| 「山峽を北に離りて 真白なる 山をし仰ぎ 心ときめく」 |                  |
| 6 コーラス                      | アシヤユースコーラス       |
| 7 合唱『雪山賛歌』                  | 出席者全員            |
| 8 閉会のことば(乾杯)                | 日本山岳会関西支部長 重廣 恒夫 |

## 開催の趣旨

藤木九三氏は、RCCの設立、岩場の開拓を始め、岩登り技術の基礎づくりをされ、多くの登山家を育てられました。また、ロックガーデンの名付親とされ、山岳詩人として優れた詩や著書をのこされています。勤務された朝日新聞社では、登山の指導教育、登山行事の主催や後援、海外登山隊への援助など、登山界の発展に寄与された、我国を代表する登山家であり、指導者でした。

この大きな功績と人柄を慕い、レリーフの建設が考えられたのは、昭和36年頃です。当時日本山岳会関西支部長であった津田周二氏を中心として、山岳連盟、RCCの方々が世話人会を決成され、約400名の方々から67万円の寄付金を得て建設されたものです。レリーフの製作は日本山岳会員で彫刻家の佐藤久一朗氏が担当され、昭和38年5月12日に藤木先生も出席され、約200人の岳人が集い盛大に除幕式が行われました。

関西の山仲間が年1回レリーフの前に集まり、旧交を暖め藤木先生をはじめ岳友を偲び、登山の発展と安全を祈る場として、今後も継続されることを念願しています。

## 藤木祭記念ハイキング

集合 平成20年9月28日(日)午前9:00  
場所 阪急電車 芦屋川駅前  
コース 鷹尾山~岩梯子~荒地山~横池~  
風吹岩~中央稜~高座の滝  
担当 大阪府山岳連盟・兵庫県山岳連盟

## 藤木九三氏略歴

1887年(明治20年)9月30日生

1970年(昭和45年)12月11日死去(83歳)

福知山市で薬種商を営む、藤木喜兵衛氏の6男として生まれ、京都府立三中(現福知山高校)より早大に進学、大正4年朝日新聞社に入社。大正14年滝谷の初戸登はんに成功。大正15年ヨーロッパアルプスや、イギリスの岩場を登る。「屋上登攀者」をはじめ多くの著書がある。

## 第21回藤木祭(次回)は

平成21年9月27日(日)実施

## 雪山賛歌

- 雪よ岩よわれらが宿り  
俺たち町には住めないからに  
俺たち町には住めないからに
- シールはずしてパイプのけむり  
輝く尾根に春風そよぐ
- けむい小屋でもこがねのごてん  
早く行こうよ谷間の小屋へ
- テントの中でも月見はできる  
雨が降ったらぬれればいいさ
- 吹雪の日にはほんとうにつらい  
ピッケル握るに手がこごえるよ